



港区まちづくりビジョン

～暮らして楽しい・遊んで楽しい・働いて楽しい～
『未来と世界にひらくまち・港区』をめざして

【概要版】

平成28年7月

令和5年4月一部改訂

このビジョンは、人口減少を食い止め、将来予測を覆すために、「令和5年4月から4年間」で港区がめざすまちづくりの方向性を示しています。

港区の特性と課題

日本の都市部における課題最先端エリア

1 少子高齢化

港区の人口は、令和3年12月には8万人を下回り、今後さらなる人口減少（2045年には6万人以下）が見込まれています。特に年少人口の減少が激しく、小中学校の小規模化が進んでいます。住みなれた地域で高齢者がいきいきと活動し、安心して暮らすことのできる環境づくりや、子育て世代に選ばれる子育て・教育環境の充実、外国人住民との共生を進めることが重要になっています。

2 地域コミュニティ

港区は、住民どうしのきずなや助け合いの気持ちが強く地域活動が活発なまちです。一方、本格化する少子・高齢化により地域コミュニティを支える担い手が不足しつつあります。区民一人ひとりが地域に愛着と関心を持ち、幅広い世代の人々が地域の課題を共有しながら、その解決に取り組む、「区民主体の持続可能なまちづくり」が今後より一層求められています。

3 まちの安全・安心

港区は三方を海と川に囲まれており、津波や高潮の被害を受けやすい地勢にあります。特に、津波から身を守るためにはいち早く避難することが大切であり、日頃から避難場所や避難経路を確認する等、逃げ遅れを防ぐ必要があります。また、高齢者を狙った振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺や若者を狙ったさまざまな消費者被害が発生しています。地域・事業者・関係機関と協働した啓発や注意喚起の広報が重要です。

4 まちのにぎわい

区内東部の弁天町は交通の結節点であり、文化、商業等が集積しています。区内中央部には八幡屋公園や大阪市中央体育館、大阪プールがあります。区内西部の築港・天保山周辺は、海遊館や大観覧車、世界第一級のクルーズ客船が入港する天保山岸壁など、国内外からの観光客が訪れるエリアです。2025年大阪・関西万博の開催を機に、活性化が期待されます。

区内の企業は、後継者不足や経済情勢の変化などの影響により事業所数は年々減少していますが、優れた技術と柔軟なアイデアを新たな製品開発につなげる事業者間連携など、町工場のもつ力を発揮する取組も進められています。これまで取り組んできた公民連携を一層推進し、地域経済の活性化と雇用の拡大をめざす必要があります。

港区の将来像

産官学+地域の力を結集した課題「解決」最先端エリア

歴史が育んだ、港区民のDNAともいえるつながりの強さや、観光・文化・産業資源の「強み」を活かすとともに、三方を海と川に囲まれた防災上の地理的な「弱み」を技術と地域コミュニティの力で克服し、国内外から注目され、人口増を実現するまちづくりを以下の「5つの柱」により進めます。

1 区民主体のまちづくり

- (1) 豊かなコミュニティの促進
- (2) 自律した地域運営の促進

2 安全・安心・快適なまちづくり

- (1) 防災対策の強化
- (2) 防犯対策の強化
- (3) 歩行や移動の安全性の確保
- (4) 生活環境の向上と改善

3 だれもが健やかにいきいきと暮らせるまちづくり

- (1) 地域福祉の推進
- (2) 地域包括ケアシステムの構築
- (3) セーフティネットの充実
- (4) 健康寿命の延伸
- (5) 多様性を尊重しあう共生社会づくりの推進

4 「まちぐるみで子育て」と「多様な学び」を応援するまちづくり

- (1) 「まちぐるみで子育て」しやすい環境づくり
- (2) 「将来への夢や希望」を育成するための「多様な学び」の応援

5 訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり

- (1) 地域資源を活かしたまちの活性化
- (2) まちの魅力の発信
- (3) まちづくり計画によるにぎわいづくり

暮らして楽しい
遊んで楽しい
働いて楽しいまち・港区

